



稚内は、さらに北へ40キロほどの海の向こうにロシアのサハリン、樺太があるんです。晴れた日には見えるんですよ。冬の空気の澄んだ晴れの日にはサハリンの街の明かりも見えます。それぐらいに近い。国際関係もいろいろ難しいので、よく聞かれますが、同じ辺境の田舎同士ですから、これまで20年以上かけて仲良くしてきたんですね。だから、個人的には今でも連絡取っている人はいますし、政治や国際関係、一般人には分からないことが早く落ち着いて、また以前のように

北海道第二教区からやってまいりました。ボードを用意していただいています。北海道は広いです。(地図を描きながら)、札幌、旭川……知床がこの辺ですね(東北東方向)。ここが森進一さんの歌にある襟裳岬、そして函館ですね。で、私、稚内から来ました。どこだか、わかります? 稚内、わかりますか、わかenない(笑)。そう、上の上、稚内は北海道の最北端。すぐ近くに礼文島、利尻島もあります。その稚内から昨日、飛行機でやってきました。国境の町ですが空港(稚内空港)があり、羽田空港経由で伊丹空港に着きました。出発時点で気温8℃だったのに伊丹に降り立ったら26℃もあって「もう帰ろうかな」と思ったほどでした(笑)。

「日々の努力が夢への近道」と子どもたちに伝えて

法話

何を活かし、どう生きるか

浄土宗総本山知恩院布教師
北海道第二教区 大林寺住職

井上耕心

4月20日に開かれた知恩院御忌大会「夕刻法話」での法話の要旨を採録しました。



井上耕心 (いのうえ こうしん)

1978(昭和53)年、稚内市生まれ。2000(平成12)年大正大学人間学部仏教学科卒業。2010(平成22)年から浄土宗総本山知恩院布教師。2017(平成29)年に大林寺住職。2015(平成27)年からスノーボードチーム「sea more(シーモア)」、アルピニニバス少年団、稚内白樺剣道スポーツ少年団の教育担当などで地域に幅広く貢献している。